

敗戦、されど生きよ

石原莞爾最後のメッセージ

早瀬利之著 四六判ソフトカバー248頁 本体 2,200円 ISBN978-4-8295-0796-4

終戦後、広島・長崎をはじめ全国を駆け回り、
悲しみの中にある人たちを励まし続け、
敗戦国日本の再建策を提言した石原莞爾晩年の姿を、
日記と多くの資料、証言をもとに描いたドキュメント



山形県遊佐町の石原莞爾墓所にて、著者

早瀬利之 (はやせ としゆき)

1940年(昭和15年)長崎県生まれ。昭和38年鹿
児島大学卒業。石原莞爾研究者。著書に、『石
原莞爾 満州合衆国』、『石原莞爾 満州備忘ノ
ート』、『石原莞爾 国家改造計画』、『参謀本部作
戦部長石原莞爾』、『石原莞爾 北支の戦い』、『南
京戦の真実』、『サムライたちの真珠湾』、『将軍
の真実・松井石根将軍の生涯』(以上、光人社
および潮書房光人社)、『奇襲』(南日本新聞開
発センター)、『石原莞爾 マッカーサーが一番
恐れた日本人』(双葉新書)、『靖国の杜の反省
会』、『石原莞爾満州ふたたび』(以上、芙蓉書房
出版)などがある。日本ペンクラブ会員、満州
研究会会員。



リヤカーに乗って東京裁判酒田
臨時法廷に向かう際、内外の記
者団のインタビューに答える石
原莞爾(58歳)
「私が参謀総長だったらアメリ
カには負けなかった」

**「最大の戦犯は
トルーマンだ！」**

石原莞爾の生涯を描くことをライフワークとしている作家
早瀬利之が、終戦直前から昭和24年に亡くなるまでの4年
間の壮絶な戦いをダイナミックに描く。

東久邇宮内閣組閣に関わり、戦後は「戦争放棄、都市解体、
簡素生活、皇居と首都移転」など日本再生の提言を発信し
続けた。膀胱ガンに侵されながら極東軍事裁判酒田法廷で
は堂々と主張を展開。

死の床で書いた「新日本の進路」の全文を掲載。

「敗戦後、齒に衣着せず、堂々と日本の立場を発言したの
は、石原莞爾ただ一人だった」(本書「プロローグ」より)

第1章	終戦と石原莞爾
第2章	戦後の第一声は「言論の自由」
第3章	再生日本の道
第4章	新日本の建設
第5章	迫りくる戦犯容疑
第6章	極重軍事裁判 石原が斬る
第7章	石原莞爾、戦犯を望む
第8章	西山農場と百姓将軍
第9章	極東軍事裁判酒田法廷
第10章	西山農場に理想郷づくり
第11章	死の床で遺言「新日本の進路」と
第12章	「日蓮教入門」を書く
付録	敗戦直後の石原莞爾の第一声 「世界文化の達観と心よりの懺悔」 立ち渡る

8月上旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 7月27日(月) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
敗戦、されど生きよ 石原莞爾最後のメッセージ		
8月新刊 本体 2,200円	部	